

## Dance With the One Who Brought You | Sin Park

FAR通信

2022年2月9日 00:10



Sin Park, Dance With the One Who Brought You, Install view, 2021. Patricia Fleming Gallery, Photo: Keith Hunter

6枚の大きなペインティングとドローイング群で構成されたSin ParkのPatricia Fleming での初個展は、Parkの最近の作品であり、展示タイトルでもある'Dance With the One Who Brought You'や、ここ5年間のうちに制作された絵画も展示されている。激しいブラッシュストロークやマークメイキングが鑑賞者を引き付ける彼女の絵画は、じっと鑑賞をしていると絵画の中に室内空間や、家具のような形が見えてくる。次の瞬間には見えなくなってしまうようなそれらのイメージは、彼女の早い印象を与えるマークメイキングがその瞬間性を促進しており、そのような仕事は、より小さなサイズである、英国で初めて起きたロックダウンの際に彼女が日毎に制作した200枚のドローイング、'Drawings from Isolation'でも表されている。



Sin Park, Drawings from Isolation 1-200, 2020, Marker pen, Posca on paper, 14.8 x 21cm. Photo: Keith Hunter.



Sin Park, The Shape of Evidence, 2017, Acrylic, oil and oil pastel on canvas, 230x380cm. Photo: Keith Hunter.

ロックダウンによる強制的な内側での生活は、他人との接触を絶った孤独な期間であり、彼女の絵画実践にも少なからず影響を与えた。'Drawings from Isolation'において、彼女は、'自分の居場所、逃げ場所'としての窓に着目し、自宅の窓から見えるものの動きに触発されドローイングを描き続けた。朴が「窓」を考えるきっかけとなったのは、彼女が借りている部屋の前の住人である一人暮らしの老女が、窓から高速道路を走る車を友人だと思って眺め、孤独を紛らわしている様子だ。また、David Levittの著書'The lost language of cranes'の一章'The lost The Crane-Child'に登場する子供、ミシェル。母親に顧みられず、部屋で孤独に過ごす彼は、窓の外から見える工事現場のクレーンの動きを真似るようになり、クレーンの動きとその言語に取り憑かれるようになる。

孤独と窓は、透明性と物理的な遮断という窓の性質によって孤独を強化し、あるいは逆に孤独を慰めるという両義的な関係で結ばれている。例えば、エドワード・ホッパーの「ナイトホークス」は、大きな窓から店内が露出しており、夜の街の孤独が描かれている。さらに、朴の着想と似たような例を、ハンス・クリスチャン・アンデルセンの『絵のない絵本』に見いだすことができる。主人公の貧しい孤独な画家が、窓から見える月を友だちと呼び、月は"私の言うことをスケッチしなさい、そうすれば本当に美しい絵本ができるはずだ"と言う。画家は窓を通して孤独を癒し、創作のためのインスピレーションを得るのだ。どちらの例にせよ、窓は孤独な人に対象を提供する。高速道路を走る車、クレーン、月などは、静的な室内に自らの動きと状態の変化を現す。私たちは対象があって初めて自分を認識することが可能になる。自分の人生の記録であり、自分の感情をよりよく理解するための地図であると語るParkの実践は、ドローイングの素材である紙が、まるで自分自身と対話するための窓であるかのようである。

'Drawings from Isolation'の後に制作されたParkの近作'Dance With the One Who Brought You'は、'Drawings from Isolation'の隣の壁に掛けられている。ドローイングと比較すると、この絵画はより丁寧な筆致の層を見せ、植物の具象的なイメージを表現している。この二つの作品から、私は最近のParkの絵画制作を距離と空間という観点から、"内と外"、"そこに動く世界とそこに動く彼女"など、朴を取り巻く経験的な近接性と遠隔性の関心を感じ取ってしまう。Parkは、知覚した動きに対応するために、自分と対象の動きを絵の具の表面に定着させようと試み、その動きは、彼女と被写体と絵画の間で反響を続け、それぞれの現在形を何度も何度も再構築していき、そのインタラクティブな動きは、作品の最後、絵が現在形のサイクルから切り離された独立性を獲得する瞬間に頂点に達する。'Dance With the One Who Brought You'からは、彼女と植物との距離が近いことが読み取れ、それ故にこの絵からは特別な親密さを感じることができる。また、'Dance With the One Who Brought You'は、「あなたを支えてくれた人、気にかけてくれた人、助けてくれた人に思いやりと忠誠心を持ちなさい」という意味のことわざでもある。彼女のモンスターに対する眼差しは注意深く、彼女にとってこのモチーフが家庭的に重要であることを暗示しており、一面に描かれたモンスターの近さは、「ダンス」というタイトルが示すように、ダンスをするときの距離でもある。'Dance With the One Who Brought You'は、彼女と彼女の空間の、相互の経験とテンポが呼び起こされ、心地よく響き合うそのリズムを凝縮された時間として鑑賞者に共有するのだ。

Sin Parkは韓国のソウルに生まれ、現在はグラスゴーとロンドンを拠点に活動しており、現在、The Glasgow School of Artのファインアートの博士課程に在籍している。2017年にRoyal College of Artで絵画の修士号を、2012年にソウルのEwha Womans Universityで絵画の学士号を取得。

<https://www.patricia-fleming.com/viewing-room-sin-park-2021>